

愛知県立春日台特別支援学校いじめ防止基本方針

1 いじめの防止についての基本的な考え方

いじめは、いじめられた児童生徒の心身に深刻な影響を及ぼす許されない行為であり、また、どの子どもでも被害者にも加害者にもなりうるという事実を踏まえ、教職員は、日頃からささいな兆候を見逃さないように努め、問題を一人で抱え込んでしまわないよう、学校全体で組織的に指導に当たることを基本とする。

何より学校は、幼児児童生徒が教職員や周囲の友人と信頼できる関係の中で、安心・安全に生活できる場であることが大切である。児童生徒一人一人が大切にされているという実感をもつとともに、互いに認め合える人間関係をつくり、集団の一員としての自覚と自信を身に付けることができる学校づくりに取り組むことが重要である。また、実体験の乏しい児童生徒が、さまざまな体験活動等を通して人間的に成長できる取組の充実を図ることが求められる。

<いじめ防止対策推進法>第2条第1項

「児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人間関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。」

2 いじめ防止対策組織について

いじめのささいな兆候や懸念、幼児児童生徒からの訴えを、特定の教員が抱え込むことのないよう、組織として対応するために、従来の「生活指導委員会」としての組織を活用し、改めて「いじめ・不登校対策委員会」を設置する。

(1) 「いじめ・不登校対策委員会」について

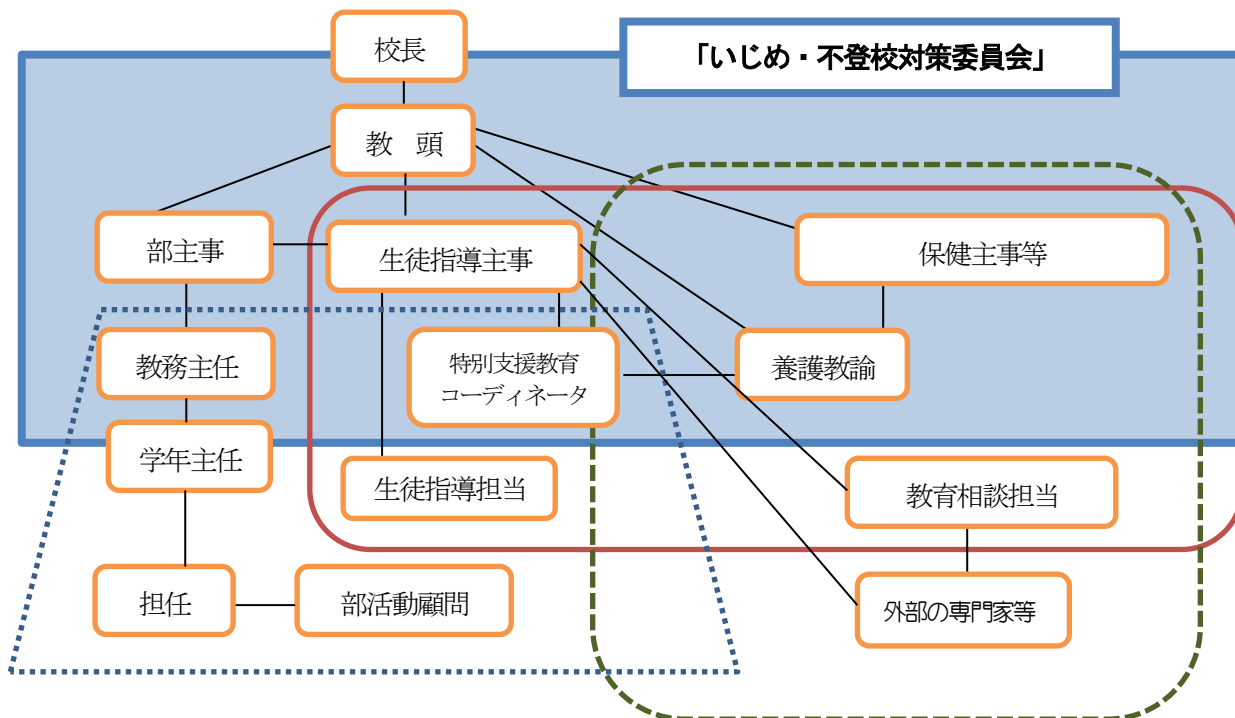
ア 委員会のメンバー

校長、教頭、部主事、教務主任、生徒指導主事（中）（高）、保健主事、特別支援コーディネータ、当該学年主任、当該学級担任、関係職員、養護教諭等（必要に応じて、外部の専門家を加える。）

イ 指導・支援チーム

委員会が、事案に応じて、適切な教員等をメンバーとする指導・支援チームを決定し、実際の対応を行わせる。いじめの防止、早期発見、早期対応に当たっては、事案によって関係の深い教職員を追加したり、ネットいじめなどでは、インターネットに詳しい教員を加えたりするなど、適切なメンバーで対応できるよう柔軟にチームを組んで対応する。

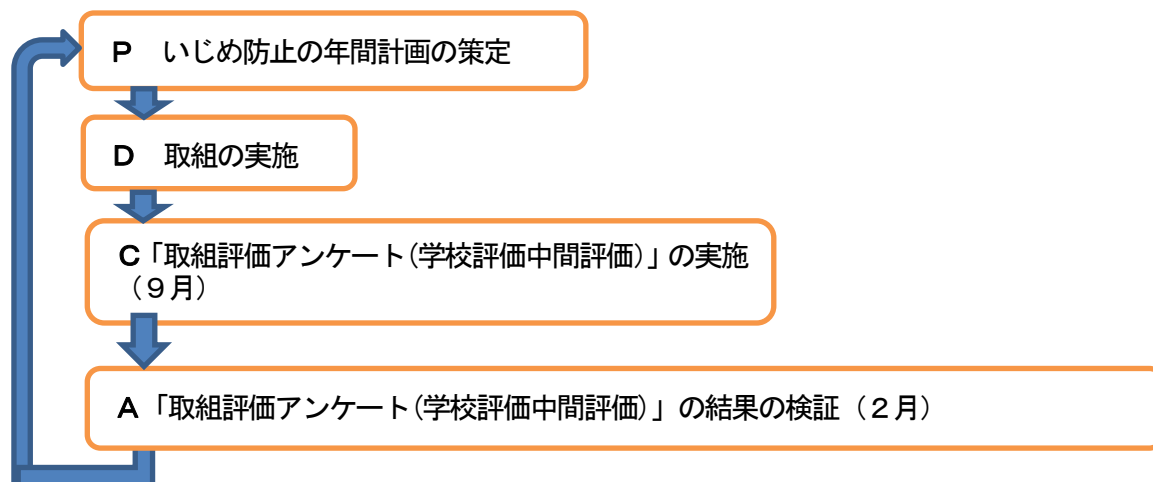
【組織図】



※ □、□、□ は、指導・支援チームの例。事案によってメンバーを柔軟に変える。必要に応じて外部の専門家と連携をとる。

(2) 「いじめ・不登校対策委員会」の役割や機能等

ア 取組の検証（PDCAサイクル）



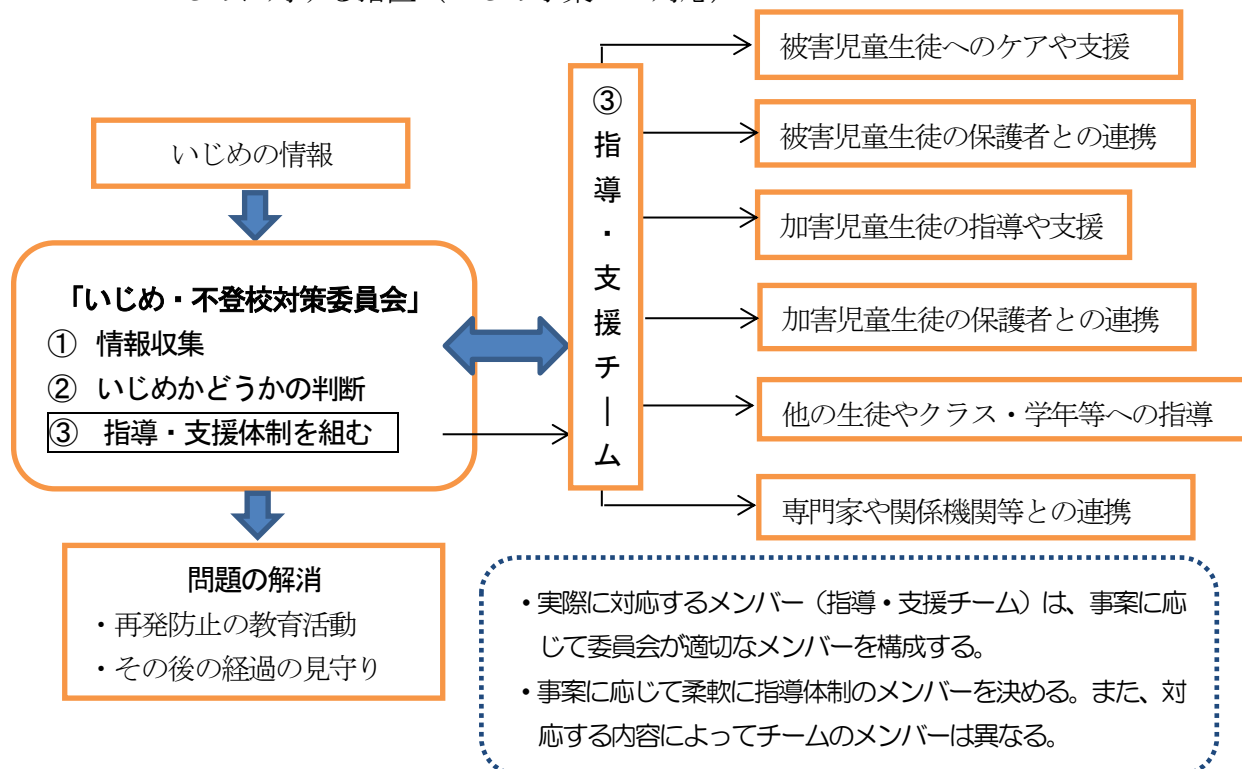
イ 教職員への共通理解と意識啓発

- ・年度初めの職員会議で「いじめ防止基本方針」の周知と確認を行う。
- ・「いじめ・不登校対策委員会」で検討した内容を部会等で報告する。
- ・現職研修で、年1回以上「いじめ・不登校」をテーマとした講話やケーススタディを実施する。

ウ 児童生徒や保護者、地域に対する情報発信と意識啓発、意見聴取

「学校いじめ防止基本方針」及び「自己評価」「学校関係者評価」結果を、学校経営案及び学校のホームページに掲載する。

エ いじめに対する措置（いじめ事案への対応）



オ 重大事態への対応

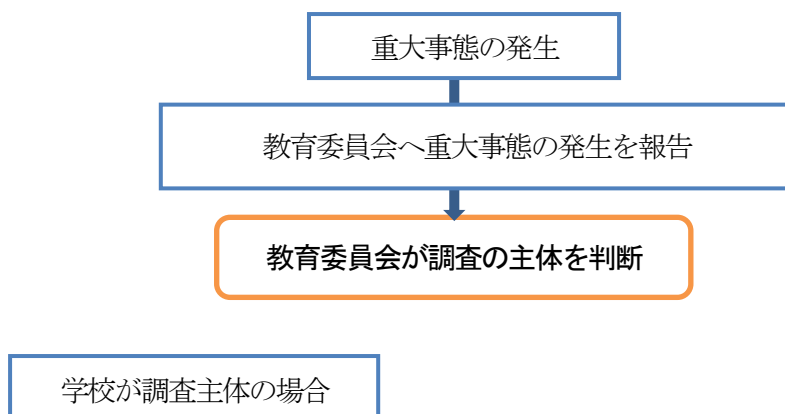
重大事態が生じた場合は、速やかに教育委員会に報告し、文部科学省「重大事態対応フロー図（学校用）」に基づいて対応する。

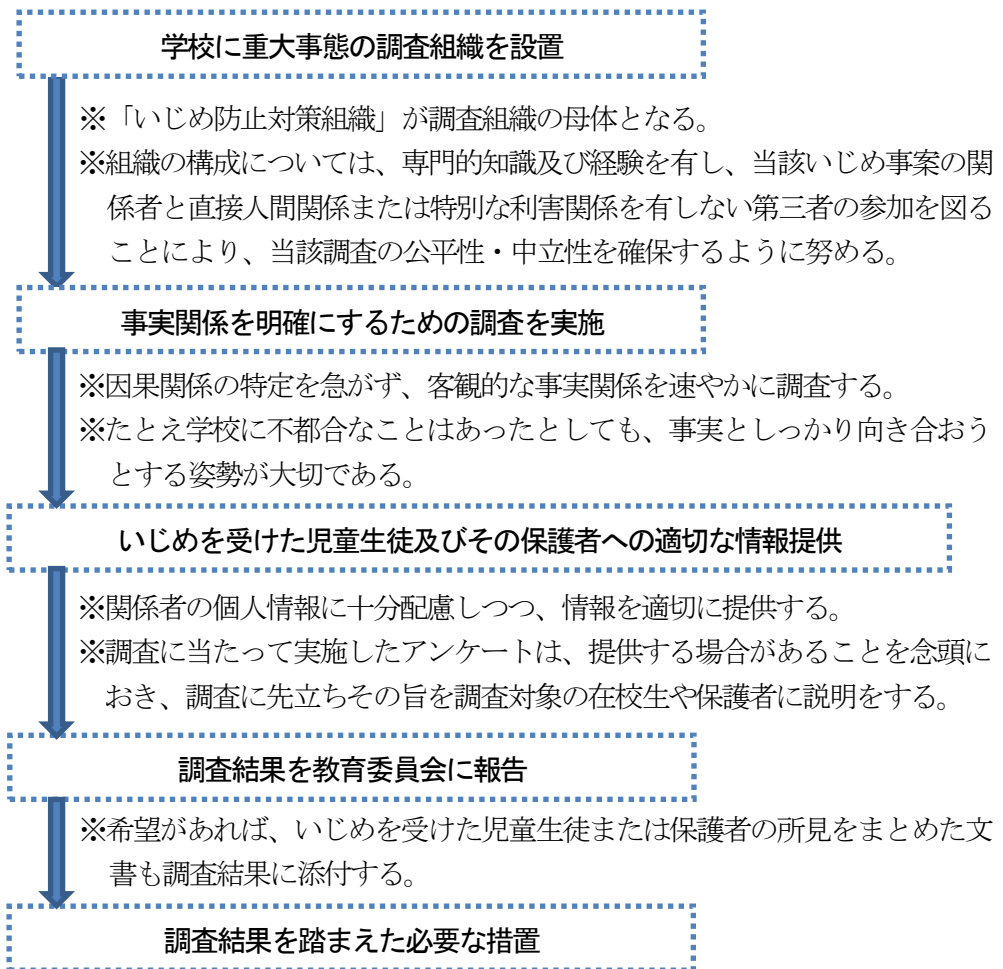
学校が調査を実施する場合は、「いじめ・不登校対策委員会」が調査の母体となり、事案に応じて適切な専門家を加えるなどして対応する。

【文部科学省「重大事態対応フロー図（学校用）」より

(注) 重大事態とは（「いじめ防止対策推進法」第28条）

- 一 いじめにより当該学校に在籍する児童等の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認めるとき
- 二 いじめにより当該学校に在籍する児童等が相当の期間（年間30日を目安とする。）学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認めるとき





3 いじめの防止等に関する具体的な取組について

(1) いじめの未然防止の取組

- ア 現職研修を充実させ、全ての教職員がいじめに対する共通理解をもち、適切に対応できる力を養う。
- イ 教育活動全体を通して、道徳教育・人権教育の充実、体験活動・就業体験の推進を図る。
- ウ 公開授業を積極的に行い、授業改善を進め、分かりやすい授業づくりに努める。
- エ 体罰はもとより職員の言動がいじめを助長することのないよう、指導の在り方に細心の注意を払う。






























(2) いじめの早期発見の取組

- ア 職員は、児童生徒のささいな兆候から、いじめを積極的に認知するように努める。
- イ いじめを認知またはいじめの疑いがある場合は、速やかに「いじめ・不登校対策委員会」に報告をし、組織的に対応する。
- ウ 定期的な「いじめアンケート調査」(年2回)の実施や教育相談の充実を図る。

(3) いじめに対する措置

- ア いじめの発見・通報を受けたら「いじめ・不登校対策委員会」で組織的に対応する。
- イ 被害児童生徒を守り通すという姿勢で対応する。
- ウ 加害児童生徒には教育的配慮のもと、毅然とした姿勢で指導や支援を行う。
- エ 職員の共通理解、保護者の協力、専門家や関係機関等との連携のもとで取り組む。
- オ いじめが起きた集団へのはたらきかけを行い、いじめを見過ごさない、生み出さない集団づくりを行う。
- カ ネット上のいじめへの対応については、必要に応じて警察署や法務局等とも連携して行う。また、日頃から情報モラル教育の充実を図る。

(4) 取組の年間計画

	未然防止の取組	早期発見の取組	「いじめ・不登校対策委員会」の動き	保護者・地域との連携
4月	○健康調査の実施【全学年】  ○保健室の周知【全学年】  ○新入生オリエンテーション週間【中1・高1】   ○面談週間【全学年】  ○人間関係づくり【全学年】  ○学校公開【全学年】  	○面談による情報共有【全学年】   ○学年会、部会による情報共有【全学年】  		○登下校指導 ○部活動運営委員会 ○授業参観①
5月	○個別の懇談週間【全学年】  	○「心のアンケート（いじめアンケート）①」【全学年】   ○学年会、部会による情報共有【全学年】  		○個別の懇談週間 ○運動会
6月	○野外活動【中1・2】   	○学年会、部会による情報共有【全学年】   	○全教職員対象の「取組評価アンケート」→検証	
7月	○野外活動【高2】   ○学校公開【全学年】  	○学年会、部会による情報共有【全学年】   		○授業参観②
8月				
9月	○個別の懇談週間【全学年】   ○宿泊学習【小5】  	○学年会、部会による情報共有【全学年】   	○中間評価→検証	○個別の懇談週間
10月	○修学旅行【小3中3】   ○学校公開【全学年】  	○「心のアンケート（いじめアンケート）②」の実施【全学年】   ○学年会、部会による情報共有【全学年】   		○授業参観③

11月	○学校公開【全学年】 学教部	○学年会、部会による 情報共有【全学年】 学指部		○学校評議員の 学校行事・授 業の公開 ○文化祭
12月	○人権講話【全学年】 指 ○面談週間【全学年】 学 ○学校公開【全学年】 教学	○面談による情報共有 【全学年】 学指部 ○学年会、部会による 情報共有【全学年】 学指部	○全教職員対象の 「取組評価アン ケート」→検証 ○人権についての現 職研修（講話）	○授業参観④
1月	○学校公開【全学年】 教学	○学年会、部会による 情報共有【全学年】 学指部		○授業参観⑤
2月	○卒業奉仕活動【卒業学年】 指学 ○新入生説明会【新小中1】 指教保進	○学年会、部会による 情報共有【全学年】 学指部		
3月	○新入生説明会【新高1】 指教保進 ○学校公開【全学年】 教学	○学年会、部会による 情報共有【全学年】 学指部	○学校評議員による 評価結果検証 ○「いじめ防止基本 方針」見直し	○学校評議員に よる評価 ○授業参観⑥ ○学校評価の提 示→評価

教…教務部

指…指導部

保…保健体育部

進…進路指導部

部…部会

学…学年会